

山口県立萩美術館・浦上記念館

# H A G I |

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

# 萩

# 108

SUMMER ISSUE  
2023







# 浮世絵×カブキ 江戸の役者絵展

めっぱり顔です。  
役者似顔の成立とその後の展開。

7月29日(土)から、展覧会「浮世絵×カブキ 江戸の役者絵展」がはじまる。歌舞伎役者を描いた役者絵は、美人画、名所絵(風景画)、武者絵、相撲絵、花鳥画といった多岐にわたる浮世絵版画のジャンルのなかで、絶大な出版量を誇った。とはいえ、現代の私たちが鑑賞するには共感しにくく、難しい印象があるのもまた事実。本展に興味を持ってくださる方が一人でも増えれば…と願いを込めつつ、役者絵にとって大切な要素である“顔”に注目して、時代を追いながら見ていきたい。

## 役者絵のはじまり

江戸時代、歌舞伎は日が昇ってから暮れるまで、一日がかりで上演された。江戸では中村・市村・森田の三座が幕府からの許可を得て歌舞伎興行を行い<sup>1</sup>、大当たりすればロングラン。反対に、人気がなければすぐに打ち切りとなる厳しい世界でもあった。

そんな歌舞伎興行を盛り上げたひとつに出版物があった。上演の際には、配役を記した役割番付、芝居の見せ場を絵でまとめた絵本番付と呼ばれる冊子、ほかにもさまざまな出版物が売り出された。そのなかで、肖像写真や舞台写真としての役割を果たしたのが役者絵であった。

江戸で浮世絵版画による役者絵が成立するのは、元禄期(1688~1704)のことである。劇場と結びつき、後には芝居小屋に掲げる絵看板や番付を専門的に手掛けていくこととなる鳥居派が、善悪や老若男女といった役柄をわか

りやすく描いて役者絵を定着させた(挿図1)。荒事に登場する力強い主人公たちは、瓢箪足蚯蚓描という描法によって超人的な迫力に溢れ、顔つきは人間というより仁王などの神聖な領域のイメージに近い(挿図2)。

顔は役柄を理解するための標として機能した。そこに似顔表現は見られず、画中に記された名前や紋が役者を識別するための情報源となった。

## 役者似顔、あらわる

鳥居派が役者絵の主流となるなか、明和7年(1770)に出版された『絵本舞台扇』(挿図3)が革命をもたらした。新興勢力ともいえる二人の絵師、勝川春章と一筆斎文調が合作したこの絵本には、79名もの役者の絵姿が収録されていたのだが、それぞれに顔の特徴を捉えた似顔で描き分けられていたのである。これ以前から似顔表現は試み



(挿図1)鳥居清経  
「初代市村亀蔵の京の二郎  
尾上菊五郎のしげたゞ」  
宝暦11年(1761)



(挿図2)鳥居清経  
「二代目市川團十郎  
の虎退治」  
正徳3年(1713)、  
千葉市美術館  
[8月12日(土)~  
27日(日)展示予定]



(挿図3)勝川春章・一筆斎文調  
「絵本舞台扇」  
明和7年(1770)、太田記念美術館



(挿図4)東洲斎写楽  
「三代目瀬川菊之丞の田辺文蔵妻おしづ」  
寛政6年(1794)



(挿図5)歌川豊国  
「役者舞台之姿絵 はまむらや」  
寛政6~7年(1794-95)頃



(挿図6) 歌川国芳「荷宝蔵壁のむだ書」  
弘化4年(1847)頃



(挿図7) 落合芳幾「与はなさけ浮名の横ぐし」  
万延元年(1860)

※所蔵館の表記がない作品はすべて当館蔵

られていたが<sup>2</sup>、この『絵本舞台扇』の影響力は大きく、以後の役者絵には“似せる”ということが求められるようになった。役者絵は表現の方向性を大きく転換することとなるのである。

## その後の展開

役者似顔が確立したすぐ後には、浮世絵の黄金期とされる天明・寛政期(1781~1801)が訪れる。個性豊かな浮世絵師たちの登場により、役者絵の出版はますます活発になっていく。

この時期に役者絵を手掛けた浮世絵師として、最も知られているのは東洲斎写楽である。一瞬ギョッとしてみても写楽の役者似顔が現代で好まれるのは、美術として絵師の個性や表現力を重視するからこそであろう。しかし、当時の人々にとっては、そうではなかったようだ。写楽の役者絵は、『浮世絵類考』(享和2年<1802>、山東京伝追考)において、「あまりに真を画かんとてあらぬさまにかきなせしかば」と評された。真実・実際を描こうと追求しすぎて、かえって普通でない・望ましくない姿になってしまったのである(表紙、挿図4)。

一方で人々に受けたのは、均整の取れた役者似顔を描いた歌川豊国だった。演目や演じた役は異なるが、同じ役者を描いた写楽の作品と比べてみると、バランスのよさ

が見て取れる(挿図5)。次第に豊国の役者似顔はスタンダードとなり、歌川派は一大流派に育ってゆく。

その後も役者絵の出版は勢いを増していくが、時代の流れ、政治の圧力に逆らうことはできず、天保13年(1842)の改革によって禁止されてしまう。しかし、それで消滅するような役者絵ではなく、弘化4年(1847)頃から再び出されはじめて、徐々に出版量を取り戻していった。さらには、改革による抑圧をきっかけに、落書き風に描いた作品や、動物を擬人化して役者似顔で描いたユニークな作品までもが創案されていく(挿図6、7)。こうして、浮世絵そのものが終焉を迎える明治期まで、役者絵は時代ごとに変化しながら描き続けられ、人気ジャンルであり続けたのだった。

似顔表現が定着してからの役者絵は、役者似顔の無い時代に戻ることはなかった。政治の圧力によって禁止されると、そこからまた新しい似顔の工夫が生まれた。役者絵の魅力は、やっぱり顔、だったのではないだろうか。

瀧田恵子(当館学芸課 主任)

<sup>1</sup> 正徳4年(1714)までは山村座を含む四座だった。この三座が興行不能に陥った場合には、変わって興行する控座があった。

<sup>2</sup> 武藤純子『初期浮世絵と歌舞伎—役者絵に注目して—』(笠間書院、2005年)

# 浮世絵カブキ 江戸の役者絵展 2023. 7.29 土 >>> 8.27 日 ◎会期中に一部展示替えがあります。

【休館日】7月31日(月)、8月14日(月)、21日(月) 【開館時間】9:00~17:00(入場は16:30まで) 【観覧料】一般1,300(1,100)円 学生1,100(900)円 70歳以上1,000(800)円 18歳以下無料  
 ※( )内は前売りおよび20名以上の団体料金。 ※高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。 ※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳のご提示者とその介護者(1名)は無料。 ※前売券は、ローソクチケット(Lコード63861)、セブンチケットでお求めいただけます。 ※割引券は、県内プレイガイド、道の駅、旅館等観光施設に設置しています。 ※開催中の普通展示もご覧いただけます。

ミニ講座

「役者絵、その流れのハイライト」

※聴講無料

講師 瀧田恵子(当館学芸課主任)

日時 8月6日(日) 14:00~15:00

会場 本館講座室

ギャラリー・ツアー

(担当学芸員による展示解説)

※要観覧券

日時 会期中の毎週日曜日 11:00~12:00

会場 本館2階展示室



# FINNISH GLASS ART

Sparkle and Color in Modern Design

## フィンランド・グラスアート

輝きと彩りのモダンデザイン

2023 9 / 16 sat — 12 / 3 sun



休館日：9月19日(火)、25日(月)、10月10日(火)、16日(月)、23日(月)、30日(月)、  
11月13日(月)、20日(月)、27日(月)

開館時間：9:00-17:00(入場は16:30まで)

観覧料：一般1,500(1,300)円 学生1,300(1,100)円 70歳以上1,200(1,000)円

[開催中の普通展示と第9回現代ガラス展 in 山陽小野田 特別作品展(秋展)もご覧いただけます。]

[「フィンランド・グラスアート展」、「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展」との共通観覧券のみ販売。]

\* ( ) は前売りおよび20名以上の団体料金。

\* 18歳以下の方と高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。

\* 身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保険福祉手帳のご提示者とその介護者(1名)は無料。

\* 前売券は、ローソチケット(Lコード61828)、セブンチケットでお求めになれます。

\* 割引券は、県内プレイガイド、道の駅、旅館等観光施設に設置しています。

会場：本館2階展示室

主催：2023フィンランド秋展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)

共催：S2株式会社

特別協力：コレクション・カッコネン、エフエム山口

協賛：フィンエアー、フィンエアーカーゴ、イッタラ

後援：フィンランド大使館、フィンランドセンター、山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会



### 関連イベントのご案内

記念講演会「フィンランド・グラスアートの魅力」※聴講無料・申込不要

講師：土田ルリ子氏(富山市ガラス美術館館長、本展監修者)

日時：9月16日(土) 13:30-15:00

会場：本館講座室

ギャラリー・ツアー(担当学芸員による特別展示解説)※要観覧券・申込不要

「フィンランド・グラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン」展

日時：会期中の毎週日曜日 11:00-12:00

会場：本館2階展示室

※臨時休館やイベントを中止・変更する場合がございます。



2



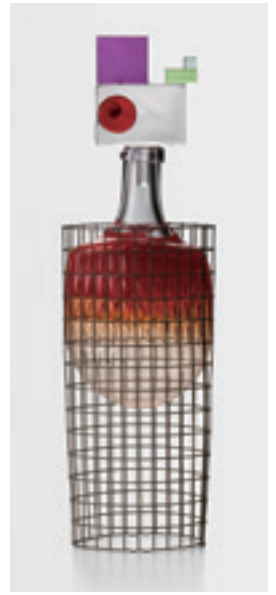
3



4



5



6

森や湖といった豊かな自然に恵まれた北欧・フィンランドでは、機能性と美しさを兼ね備えた家具や陶磁器、ガラスなどのプロダクトが数多く生み出されてきました。それらは世界中で愛され、近年の日本でも人気が高まり、私たちの暮らしに大いに取り入れられています。

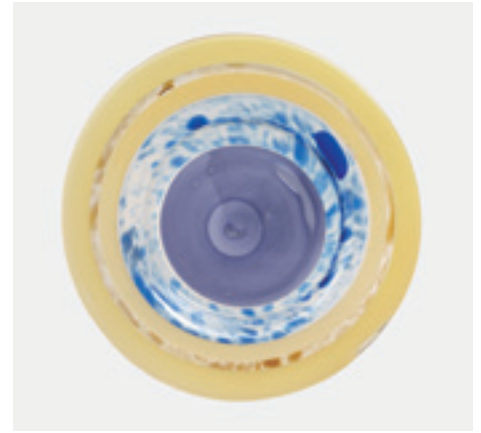
1917年ロシアから独立を宣言したフィンランドでは、高揚するナショナリズムの中、様々な分野でモダニズムが推し進められ、その動向はガラスの分野でも例外ではありませんでした。1930年代にはミラノ・トリエンナーレや万国博覧会などといった国際展示会に向けた国内コンペティションが開催される中で、優秀なデザイナーたちがガラス制作に参加するようになり、芸術的志向の高いプロダクト「アートグラス」において、国際的に高い評価を得ていきました。第二次世界大戦後、国家の復興をかけてそのチャンスはさらに増加し、1950年代にはフィンランドの風土を反映したグラスアートは国際的な名声を博し、世界のデザイン界にその存在を顕示していきました。

本展は、1930年代の台頭期を経て1950年代の黄金期、さらに現在に至る8名のデザイナー・作家のガラス作品約130件余りにより、フィンランド・グラスアートの系譜を辿ります。また本展覧会は、デザイナーが自ら「アートグラス」の名のもとにデザインし、職人との協働作業によって生まれた作品に着目します。一人一人の表現者たちが、ガラスという素材といかに対峙し、探究し、創作の可能性を押し広げていったのか一作品が発する魅力とともに、各時代、各作家たちのガラスへの信条と挑戦、作品に込められた想いをうかがい知ることができる絶好の機会となります。

出品作家：アルヴァ&アイノ・アアルト、グンネル・ニューマン、カイ・フランク、タピオ・ヴィルツカラ、ティモ・サルパネヴァ、オイヴァ・トイッカ、マルック・サロ、ヨナス・ラークソ

1. カイ・フランク《アートグラス、ユニークピース》(部分) 1970年代前半 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所 2. アルヴァ&アイノ・アアルト《アアルト・フラワー [3031,3032,3033,3034]》1939年 カルフラ/イッタラ・ガラス製作所 3. ティモ・サルパネヴァ《カヤック [3867]》1954年 イッタラ・ガラス製作所 4. グンネル・ニューマン《ストリーマー [GN18]》1947年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所 5. オイヴァ・トイッカ《知恵の樹、ユニークピース》2008年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所 © KUVASTO, Helsinki & JASPAR, Tokyo, 2023 G3206 6. マルック・サロ《アートグラス、ユニークピース》2017年 ラシコンパニア 7. カイ・フランク《アートグラス、ユニークピース》1966年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所 8. ヨナス・ラークソ《リコリスみたい》2012, 2013年 ラシスミ

すべてコレクション・カッコネン 撮影：Rauno Träskelin  
※本展における作家名並びに関連機関の名称の一部は、イッタラの表記と異なる場合がございます。



7



8

同時開催

# CONVIVIAL LIFE AT MOOMIN'S TABLE EATING AND SHARING NATURE'S BOUNTY

ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展  
— 食べること、共に生きること —



(ムーミンが海へ行く) 1965年 © Moomin Characters™

「ごちそう」や「共生」などを意味する言葉「コンヴィヴィアル」をテーマとして、豊かな自然に寄り添いながら仲間とともに生きるムーミンの世界観を、原画や複製原画、フィギュアなども交えて紹介します。

会場：陶芸館1階展示室  
主催：2023 フィンランド萩展実行委員会  
(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)  
共催：S2株式会社  
特別協力：Moomin Characters Oy Ltd. (フィンランド)、ムーミンバレーパーク(埼玉県飯能市)、ムーミン美術館(フィンランド)、エフエム山口  
協賛：フィンエアー、フィンエアーカーゴ、Finlayson  
後援：フィンランド大使館、フィンランドセンター、山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会

日本語監修：富原真弓(聖心女子大学名誉教授)  
英語監修：安達まみ(聖心女子大学現代教養学部 英語文化コミュニケーション学科教授)  
協力：聖心女子大学現代教養学部英語文化コミュニケーション学科・大学院英語英文学専攻修士課程「翻訳を通じた企業協力」「翻訳理論と実践1-1」クラス



(たのしいムーミン一家) 1948年 © Moomin Characters™



# 館鼻則孝 Distance

2023年4月8日[土] - 2024年3月24日[日]







# 舘鼻則孝《Distance》に寄せて

現代美術やファッションといった、きわめて同時代性の高い視点や、作家個人の生い立ちに基づいて日本の伝統や文化を捉え、新しい造形を提示する。——舘鼻則孝(1985年、東京都生まれ)が「リシンク Rethink」という言葉で表す創出のプロセスは、2010年に卒業制作展で発表した《Heel-less Shoes》が出来上がる過程で確立された<sup>1</sup>。

舘鼻は、新しい日本のファッションを考案することを志して東京藝術大学に入学し、染織を専攻して伝統技法を学ぶとともに、日本の装束や着物文化についての理解を深めていった。その延長で、遊女の着こなしに新しいファッションの可能性を見出した彼は<sup>2</sup>、遊女についての研究を重ね、作品制作に反映させていくこととなる。遊女の高下駄から着想を得て作られた《Heel-less Shoes》は、このようにして生み出された。

この《Heel-less Shoes》は、靴そのものが均整のとれた形であるうえに、踵<sup>かかと</sup>がないという奇抜さやクリスタルガラスの輝きが加わって、鑑賞者を射すくめてしまうような魅力がある。そして何よりも、レディー・ガガが愛用したことで広く知れ渡り、舘鼻を世界中から注目を集めるアーティストへと押し上げた。その後、舘鼻は源氏香や簪、刀剣などをモチーフとした作品を発表。ファッション界のみならず、現代美術、さらには工芸の分野からも評価を得ていくのである。

こうした制作活動に加え、近年の舘鼻は「リシンク Rethink」を展開させて、アート・プロジェクトの監修なども務めている。2021年から毎年開催されている「江戸東京リシンク展」<sup>3</sup>では、和敬塾 旧細川侯爵邸などの歴史的建築を会場として、伝統産業が継承してきた技や素材とコラボレーションした作品を発表し、伝統について再考する場を作り上げた。

このような活動と照らし合わせると、当館の茶室という特殊な場での展示もまた、舘鼻が手掛けてきた仕事の流れに沿ったものと言えるだろう。このたびの展示では、四畳半の中央に屏風型の絵画《Descending Painting (Folding Screen)》<sup>4</sup>が置かれ、前方では椿を模った鑄造のブロンズ彫刻群《Camellia Fields》<sup>5</sup>が、後方の床の

間では代表作の《Heel-less Shoes》<sup>6</sup>が空間を彩っている。この簡素な茶室が、瞬く間に明るく華やかな空気を帯びたものとなったのである。

茶室内で最も注目したいのは、《Descending Painting (Folding Screen)》である。舘鼻は、一般的な屏風には決して使用されないであろうアクリル板をあえて素材として選び、5層仕立ての透明な四曲一隻とした。画面を複数のレイヤーに分解する発想は、日本を代表する美術として語られることの多い浮世絵版画(木版を重ねる)や、アニメーション(セル画やPC上でレイヤーを重ねる)にも通じる。伝統に敬意を払いながら、新しい感性を融合させようとする舘鼻のセンスが存分に発揮されているのではないだろうか。また、層構造を用いることによって、鑑賞者の目線に応じて視差(パララックス)効果が生じ、奥行きが強調されている。と同時に、屏風という形状の特質——折り曲げることで立体物となり、画面に奥行きや見え方の変化が生まれる——を強調する結果ともなった。

さて、屏風に描かれているのは、意匠化された雲と雷である。雲は「洛中洛外図」の霞をイメージの源泉とし、雷は舘鼻が以前から用いてきたモチーフのひとつで「来迎図」の阿弥陀如来から放たれる光を源泉としている<sup>7</sup>。もともと意匠化され、パターン化されていた霞と光が単独で抽出され、組み合わせられて、新たなイメージとなっているのである。人々が生活する様子をいきいきと描いた「洛中洛外図」、仏教が死の恐怖に対するひとつの答えとして示した「来迎図」。出自が異なる2つのモチーフが、親和性をもって画面上で同居し、おおもとにある命というテーマを浮かびあがらせているのだ。

馴染まないように思える素材やテーマが作品としてまとまりを見せ、鑑賞者は、現在と過去を行きつ戻りつする。本作は、ものの解釈は多種多様で複雑に共鳴しあっていることを伝えているように考えられるし、さらに舘鼻が解き放った純粋な造形の遊びとも受け取れる。「リシンク Rethink」を経て生まれる舘鼻の表現は、これからますます豊かに広がっていく予感がする。

渕田恵子(当館学芸課 主任)

1. 『舘鼻則孝 リ・シンク展』(株式会社ノリタカタテハナ、2017年)

秋元雅史「舘鼻則孝は、どこに立っているのか? 何を見ているのか?」(『舘鼻則孝 WOODCUTS』KOSAKU KANECHIKA、2021年)

『江戸東京リシンク展 旧岩崎邸庭園で見るアートが紡ぐ伝統産業の未来』(東京都・江戸東京きりプロジェクト、2022年)

2. 前掲註(1)『舘鼻則孝 リ・シンク展』

3. 主催:東京都・江戸東京きりプロジェクト、会場:和敬塾 旧細川侯爵邸(2021年、オンライン)、旧岩崎邸庭園(2022年、オンライン)、小石川後樂園(2023年、実地開催)

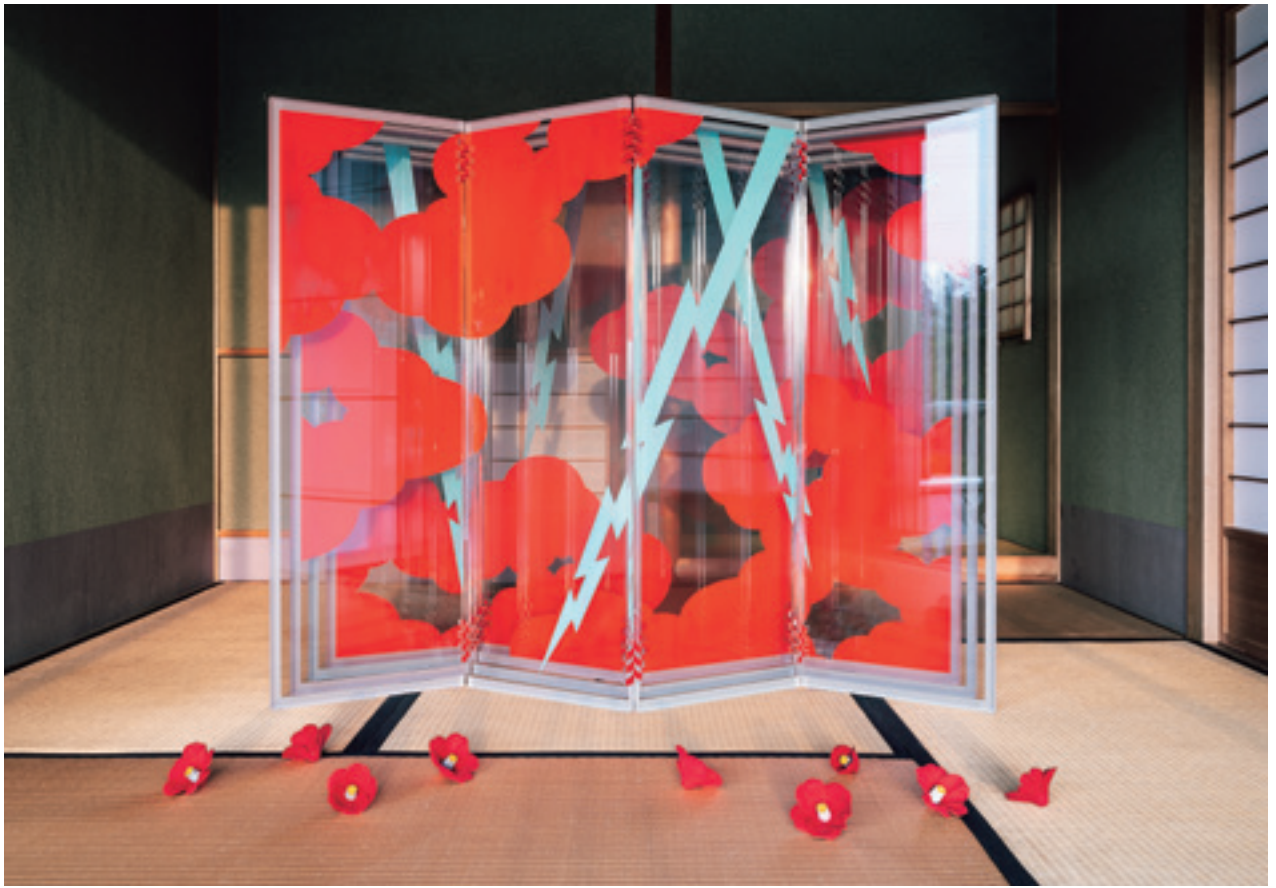
4. 制作年:2023年、素材:アクリル板、アクリルガッシュ、正絹製真田紐、サイズ:各高120.0×幅160.0×奥行2.0cm

5. 制作年:2017年、素材:ブロンズ、アクリルガッシュ、サイズ:各高9.0×幅9.0×奥行5.5cm

6. 制作年:2021年、素材:牛革、豚革、クリスタルガラス、金属ファスナー、サイズ:左右ともに高31.5×幅8.8×20.0cm。会期中に展示替えあり。

7. 前掲註(6)および <https://kosakukanechika.com/exhibition/descendingpainting/>(舘鼻則孝展「Descending Painting」2021年)







展示室1〈浮世絵〉

きょうしゅう ふうけい かわせ はすい  
郷愁の風景—川瀬巴水

【会期】7月25日(火) — 8月27日(日)

川瀬巴水(1883~1957)は、大正から昭和にかけて活躍した木版画家です。27歳で日本画家の鏑木清方(1878~1972)に入門し、大正7年(1918)に版元の渡邊庄三郎(1885~1962)のもとで手がけた塩原を主題とする三部作が好評となり、その後は新版画を代表する風景版画家として活躍します。

巴水は住み慣れた東京をはじめ日本全国を旅して描いたスケッチをもとに版画をつくるという暮らしを亡くなる直前まで続けました。

四季のうつろいを詩情豊かに描きとめ、人々の穏やかな暮らしを点景に織りなす巴水の作品は見る人を古きよき日本へとといざないます。



川瀬巴水「東京二十景 荒川の月」多色摺木版画  
昭和4年(1929)

展示室1〈浮世絵〉

うきよえ ぶんがく  
浮世絵と文学

【会期】9月16日(土) — 10月9日(月・祝)

江戸市民が愛好した浮世絵版画ですが、その画題には当時流行していた文学だけでなく、平安時代の和歌や歌物語などを描いた作品もあります。それらは主に百人一首や六歌仙の和歌、『伊勢物語』や『源氏物語』など、江戸時代には人々の教養としてよく知られた文学であったといってよいでしょう。また当世風俗を古典文学の一場面になぞらえる“見立絵”も多く描かれました。

今回の展示では平安文学を画題にする浮世絵をご紹介します。



鈴木春信「風流六歌仙 大伴黒主」中判錦絵 明和期



展示室2〈東洋陶磁〉

にほんじん あい こそめつけ  
日本人が愛した古染付

【会期】7月25日(火) — 11月12日(日)

「古染付」は、明時代末期の天啓年間(1621～27年)頃に中国・景德鎮民窯で焼かれた青花磁器で、そのほとんどがわが国に伝世する染付磁器の一群です。日本からの注文で作られたとみられる茶道具(花生、水指、茶碗、香合、鉢、手鉢、向付など)のほか、碗・皿などの日常の器もみられます。「虫喰」と呼ばれる釉の剥落が随所にみられ、そうした粗雑でありながら古拙な作風がかえって近世以降の茶人を中心とした日本人たちに好まれました。また、自由奔放な筆致による飄逸な絵付けの表現も魅力の一つで、特に碗・皿類には一幅の絵画を描いたような作品が多く知られています。本展では、これまで日本人に愛されてきた中国産のやきものである「古染付」の魅力を紹介します。



青花蝦蟇仙人図稜花鉢 中国・景德鎮窯  
明時代 17世紀 当館蔵(浦上敏朗氏寄贈)

第9回  
現代ガラス展  
in山陽小野田  
特別作品展(萩展)

【会期】9月16日(土) — 12月3日(日)

前期展示: 9月16日(土) — 10月29日(日)

後期展示: 10月31日(火) — 12月3日(日)

休館日/9月19日(火)、25日(月)、10月10日(火)、16日(月)、23日(月)、30日(月)、11月13日(月)、20日(月)、27日(月)

時間/9:00～17:00(入場は16:30まで)

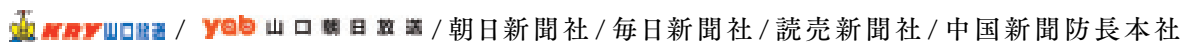
会場/山口県立萩美術館・浦上記念館 陶芸館2階(展示室8)


※入場には、特別展示(「フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン」・「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展—食べること、共に生きること—」)の観覧券(一般1,500円他)が必要です。

「現代ガラス展in山陽小野田」は、45歳以下の若手ガラス作家の登竜門として位置づけられた日本有数のコンペティション。第1～9回までの受賞作品を特別展示。現代ガラスの世界をお楽しみください。

主催 ● 現代ガラス展実行委員会/山陽小野田市

後援 ● 文化庁/山口県/山口県教育委員会/日本ガラス工芸協会/日本ガラス工芸学会/山陽小野田市文化協会



山口新聞社/宇部日報社/西日本新聞社/山口宇部経済新聞/ 

# SCHEDULE 令和5年度(7月~9月)

■ 休館日 ★ イベント ● ギャラリー・ツアー ◆ ギャラリー・トーク ▲ アーティスト・トーク

7 JUL	1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日	10 月	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日	31 月
展示室1	普通展示(浮世絵): 鏡よ鏡一浮世絵に描かれた江戸のヘア・メイク(~/7/23)																							普通展示(浮世絵): 郷愁の風景一川瀬巴水(7/25~8/27)							
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 東洋の美 青磁(~/7/23)																							普通展示(東洋陶磁): 日本人が愛した古染付(7/25~11/12)							
展示室3~6																								※							
展示室7	普通展示(陶芸): 三輪龍氣生 陶の世界(~/8/27)																														
展示室8	普通展示(陶芸): 茶陶の近現代一松下寛コレクション(~/8/27)																														
特選鑑賞室	鳥高高栄昌「お高祖頭巾 牡丹」(7/1~7/31)																														
茶室	舘鼻則孝 Distance(~/2024.3/24)																														
※浮世絵×カブキ 江戸の役者絵展(7/29~8/27)																															
8 AUG	1 火	2 水	3 木	4 金	5 土	6 日	7 月	8 火	9 水	10 木	11 金	12 土	13 日	14 月	15 火	16 水	17 木	18 金	19 土	20 日	21 月	22 火	23 水	24 木	25 金	26 土	27 日	28 月	29 火	30 水	31 木
展示室1	普通展示(浮世絵): 郷愁の風景一川瀬巴水(~/8/27)																														
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 日本人が愛した古染付(~/11/12)																														
展示室3~6	浮世絵×カブキ 江戸の役者絵展(~/8/27)																														
展示室7	普通展示(陶芸): 三輪龍氣生 陶の世界(~/8/27)																														
展示室8	普通展示(陶芸): 茶陶の近現代一松下寛コレクション(~/8/27)																														
特選鑑賞室	鳥居清長「当世遊里美人合 蚊帳の内外」(8/1~8/27)																														
茶室	舘鼻則孝 Distance(~/2024.3/24)																														
9 SEP	1 金	2 土	3 日	4 月	5 火	6 水	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月	12 火	13 水	14 木	15 金	16 土	17 日	18 月	19 火	20 水	21 木	22 金	23 土	24 日	25 月	26 火	27 水	28 木	29 金	30 土	
展示室1	普通展示(浮世絵): 浮世絵と文学(9/16~10/9)																														
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 日本人が愛した古染付(~/11/12)																														
展示室3~6	フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン(9/16~12/3)																														
展示室7	ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展一食を共に、共に生きること(9/16~12/3)																														
展示室8	第9回現代ガラス展 in 山陽小野田 特別作品展(9/16~12/3)																														
特選鑑賞室	喜多川歌麿「難波屋おきた」(9/16~9/30)																														
茶室	舘鼻則孝 Distance(~/2024.3/24)																														

## ★ イベント

### ミニ講座(聴講無料)

【日時】8月6日[日] 14:00~15:00  
 【演題】「役者絵、その流れのハイライト」  
 【講師】洲田恵子(当館学芸課主任)  
 【会場】本館講座室(座席数84席)

### 記念講演会(聴講無料)

【日時】9月16日[土] 13:30~15:00  
 【演題】「フィンランド・ガラスアートの魅力」  
 【講師】土田ルリ子氏(富山市ガラス美術館館長、本展監修者)  
 【会場】本館講座室(座席数84席)

### アート・フェスティバル2023

【日時】8月6日[日] 9:00~16:30  
 【内容】子どもから大人まで楽しめるステージやワークショップなどイベントが盛りだくさん!

## ● ギャラリー・ツアー

### (担当学芸員による展示作品解説)

「浮世絵×カブキ 江戸の役者絵展」  
 【日時】会期中の毎週日曜日 11:00~12:00  
 「フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン」  
 【日時】会期中の毎週日曜日 11:00~12:00

## ◆ ギャラリー・トーク

### (担当学芸員による展示作品解説)

いずれも11:00~(30分程度)  
 ◆7月 8日[土] 東洋の美 青磁  
 ◆7月22日[土] 三輪龍氣生 陶の世界  
 ◆8月12日[土] 郷愁の風景一川瀬巴水  
 ◆8月26日[土] 日本人が愛した古染付  
 ※「浮世絵と文学」は10月7日[土]に行います。

臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。

詳しくは当館ホームページをご覧ください。



公式HP

【お問い合わせ】TEL 0838-24-2400

※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。  
 ※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。

## 交通アクセス

### 【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で 萩・明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約90分)で 萩バスセンター下車、徒歩約12分

### 【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]

- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー) 約70~80分(利用前日までに要予約)
- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

### 【JR山陰本線】

- JR 萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
- JR 東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
- JR 玉江駅から徒歩約20分

### 【自動車】



最新情報は公式SNSで